

2022年度 第1回 南の星小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2022年5月12日（木） 14時30分から16時30分まで
- 2 開催場所 南の星小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木美佐男、小林睦夫、原川 翼、内山いずみ、
GOMES ALINE NAKAMURA、佐藤政美、澤井友美
- 4 欠席委員 井口裕士、YAMAMOTO IRFAN
- 5 オブザーバー 角谷善紀（五島協働センター センター長）
- 6 学校支援コーディネーター 佐藤政美、澤井友美
- 7 学校 須藤邦夫（校長）、長坂明典（教頭）、林裕一（CS担当職員）、
井上美和（CSディレクター）
- 8 教育委員会 鈴木陽子（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 井上美和

11 協議事項

- （1）会長の選出及び副会長の指名について
- （2）議長の選出について
- （3）南の星小学校運営基本方針について

13、会議記録

司会の林から、委員総数9人のうち7人の出席があり過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）会長の選出及び副会長の指名について

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、小林委員から原川委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。またその後、会長に選任された原川委員から、小林委員を副会長に指名する旨の報告があった。

（2）議長の選出について

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木美佐男委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

（3）南の星小学校運営基本方針について

議長の指示により、校長から資料に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

・この学校の先生は保護者対応がいいなと思う。ちょっとした相談もその日のうちに保護者に連絡があり、その日のうちに解決することが多い。翌日には子供も笑顔で学校に行けている。満足している。(内山委員)

・児童全体で32パーセントの外国籍の子がいるということですが、その子どもたちに対してどのような指導をしているのか？(鈴木委員)

→その子個人に応じた教育計画を立てている。日本語が比較的堪能な子は普通学級で学習している。また、南の星小は指導職員も充実している。教職員が2人加配でいる(外国人指導)。その他NPO法人から2人来ている。放課後勉強室(ボランティア活動)なども支援もある。(校長)

・学研教室に子供を通わせている。中学生になっても続けて通わせたいと先生に話したら、外国の子どもたちが増えていて教えるのに手いっぱいな現状。その為に中学生の子を取るのを制限しないといけない。小学校の学校の宿題が多く、学研の宿題まで手が回らない、学研に学校の宿題をもってこることもある。学校の先生方にこの機会に伝えたい。このように地域の塾の先生の困っている現状がある。(佐藤委員)

・ブラジルでも宿題の文化はある。(ゴメス委員)

・このCS(コミュニティースクール)が学校のことにとどこまでふみこんでいいのかわからない。僕らが具体的に何かを依頼して学校側がそのことに時間を割いてくれるのか。学校行事の日時の把握が難しい。(早川委員)

→今現在は、学校側から地域に対して依頼することが多い。これからはこういう力をつけたいと地域の方から様々な意見をなげかけてもらい、こういう子供を作りたい・学校の指導をこうしてほしいといった意見などを挙げてもらいたい。(校長)

・外国人3割と言う環境の下、だれにもわかるような授業を学校側も心がけていると思う。子供は比較的言葉覚えるのは早い傾向がある。地域の(日本人の)父兄の中には、多く外国人のいる環境では学校の授業の質が落ちるのではないか？そのため他の学校区の学校に行かせたいという声が聞かれるのも事実。外国人がいるからならではの良い面がこんなにあるという具体的な発信ができると、他の地域に行こうという子供が減るのではないか。(鈴木委員)

→このような多様性をもった環境はこの学校のいい所だと思う。(校長)

・南の星小だからできることを発信していくことが重要と思う。他の学校区まで発信することで、他の学区から子供たちが南の星小に来たいという子供たちを増やしてほしい。(原川委員)

・何かのきっかけで盛り上がる学校になることを見つけられたらいいと思う。(小林委員)

・学校の行事で準備に大変な行事はあるか？(小林委員)

→行事に時間をかけるものもある。運動会は昔のような準備をとれないのが実状。今年は2週間で仕上げないといけない。「ちょっとこの部分はそろえたよ。」というところを見ていただくことができるようにしていきたい。子供たちにとって何が大事かをみながら行事の時

間を取っていきたい。(教頭)

・旗振りは今後こどもが増えないので、月1回から2回に増えてしまう。先生たちに協力いただけないか？(佐藤委員)

・旗振りは父兄のボランティア。遠州浜は3丁目のみ。子供の減少で今は町関係なく旗振りをやっている。旗振りを学校に求めるのは筋が違うのではないか？(小林委員)

・五島地区では子どもの通っているところで旗振りをしたいができないといった声もある。(佐藤委員)

・自治会では「老人クラブ」などの組織など引っ張りだせないか？と考えている。地域によっては見守り隊などもあり、このような組織が今後作れたらとかがえている。他に通学時間に散歩で歩いている人に通学路を歩いてもらえないかと動きだしているところ。江之島町も子供は少ない。11名9世帯。地域の方に出てもらっている。義務ではなく有志でできたらと思っている。(鈴木委員)

・遠州浜ではもうお年寄りが立っている。(小林委員)

・朝お年寄りの方々が通学路に立っていてくれて安心している。黄色いおじさんがいるから大丈夫だよと子供に言うことができる。おかげで子供も一人で歩いて学校に行くことができている。(澤井委員)

・先生も人間。その日ごとで多少の対応が変わることもあるだろう。学校教育の基本方針の中に、子供たちにきちんと接することが明記されていていいと思う。(鈴木委員)

・「ドッチボールで子供が突き指した」電話連絡あり。小さなことまで連絡しなくてもいい。病院に行くくらい程度でなければ連絡はいらぬ。(小林委員)

・ちょっとした出来事は連絡カードに書いていただけたらいい。子ども同士のちょっとしたトラブル等の先生方の対応のあり方を考えることも、業務のありかたの見直しに繋がるのではないか？(澤井委員)

→こちらから発信するのは難しい現状。こちらからの線引きは難しい。(校長)

・先生は時にはもっと強く子供たちに対応してもいいのではないか？父兄の顔色を窺いすぎ。子供を言い聞かせても聞かない子に対して、どうしたらいいのか？先生方も戸惑うと思う。(小林委員)

その他連絡事項

・第2回運営協議会の日時の確認

司会から、次回会議は令和4年6月30日(木)午後2時30分から午後4時、会議室で開催する旨の報告があった。

オブザーバーから一言

・先生の挨拶の動画を見せていただいて、就任直後は子供たちのあいさつが少ない、挨拶の声小さいことが気になったが。今年になってから挨拶の声が大きくなった、子供たちからの発声でのあいさつを聞くことが増えた。

・地域の多様性について、協働センターでも外国人と言葉が繋がらないことが多い。そういう時には態度にも示しながら接している。言葉で足りなければ態度で接することも必要と考えている。(角屋委員)